

令和3年度 学校評価一覧

佐野市立北中学校

()内は昨年度

目標	重点項目	主な具体策 (教師が何をやるか)	評価指標 (それにより対象がどうなるか)	評価方法・評価基準	関連 アンケート等	肯定 回答	教職員による自己評価	学校評議員による学校関係者評価
自ら学び考える生徒へ知育V	①学習指導の工夫改善	●学習のめあての明確化と振り返りの実施、板書の工夫やICTの活用等により、分かる授業の展開に努める。	●学習に見通しを立てたり成就感を味わわせたりすることにより、生徒が主体的・意欲的に授業に臨んでいる。	●生徒・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	生7No.2 保7No.1	91% (94%) 81% (80%)	◆タブレットや電子黒板等ICT機器を活用することで、生徒がより意欲的に学習に取り組むようになったと感じている。教員自身もICT機器の効果的な活用について校内研修等に進んで取り組むようになったことも成果の1つである。 ◆「めあて」「まとめ」「振り返り」を明確に提示することで、生徒自身も何をどのように学ぶかを意識できたことが、評価につながっている。引き続き、内容を十分に理解し、主体的に授業に臨み、確かな学力の定着につながる授業づくりに努めたい。	◆多くの教室で、電子黒板等ICT機器が活用されていた。情報セキュリティや情報モラル、故障への対応も含め、ますます教職員のスキルアップが望まれる。 ◆どの教室でも「めあて」が提示されていた。このことが、生徒が分かりやすいと感じる授業につながっている。 ◆学校が何も言わないでも自主的に学習できる生徒は少ない。学校が家庭学習ノートの提出を呼び掛けてくれるので、自主学習が習慣化し、毎日学習することの意識が高まっているのではないかと。
	②家庭学習の習慣化	●「家庭学習の手引き」や「あゆみノート」等を活用して、家庭学習の意義や方法を伝え、習慣化を図る。	●主体的に学ぼうとする意欲が高まり、生徒が家庭学習ノートを自主的に提出している。	●家庭学習ノートを提出している生徒の割合 →80%以上の生徒が提出	生7No.5 保7No.2	81% (84%) 60% (59%)	◆毎日家庭学習ノート等を提出することで家庭での学習の習慣化を図り、学力向上につながるよう、言葉掛けとともにノート等の確認を行ってきた。毎日ノートを提出している生徒の割合は80%を越えているが、内容については様々であり、十分とは言えない生徒も見られた。家庭学習の意義等について継続的に生徒に伝えるとともに、保護者への協力を呼び掛け、習慣化につなげていきたい。	
素直な心で感謝できる生徒へ徳育V	①良い習慣の定着	●全職員共通理解の下身に付けさせたい良い習慣(返事、挨拶、靴揃え、聞く態度、立腰、2分前着席等)について継続的に指導する。	●生徒が、返事、挨拶、靴揃え、聞く態度、立腰、2分前着席等を意識して生活している。	●生徒・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	生7No.7 生7No.8 保7No.3	95% (95%) 92% (94%) 87% (87%)	◆生徒アンケートでは肯定的な回答が多く、日頃から良い習慣を意識しながら学校生活を送っていることがうかがえる。 ◆学校生活で身に付けた望ましい習慣を家庭でも実践できるよう、継続して指導していきたい。	◆生徒はよく挨拶をしている。靴箱の靴もきれいに並んでいる。教室もよく整理整頓されている。この学校の躰が家庭でも生きると良い。 ◆交通事故防止については今後もさまざまな場面での指導や呼び掛けを継続していただきたい。
	②生命尊重・人権尊重を基盤とした教育実践	●交通事故防止のための指導の充実、不登校生徒への適切な支援、いじめの未然防止と早期発見・早期対応に努める。	●交通事故や不登校生徒が減少するとともにいじめは許さないという意識が生徒に浸透している。	●交通事故件数の増減 →前年度同期より減少 ●不登校生徒数の増減 →前年度同期より減少 ●生徒・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	事故の増減 不登校生徒数の増減 生7No.10 保7No.4	-3件 (+3件) +3人 (-2人) 92% (94%) 81% (83%)	◆交通安全主任による注意喚起を継続した結果、交通ルールを遵守しようとする意識が高まった。 ◆不登校生徒一人一人に合わせて個別に支援し、学校とのつながりを絶たないような取組を継続していきたい。 ◆今後も生命人権尊重旬間での取組や生活アンケート、教育相談等を通して生徒の実態を把握することで、より一層いじめのない学校づくりを目指すとともに、各種たより等で保護者啓発に努めたい。	◆生徒はよく挨拶をしている。靴箱の靴もきれいに並んでいる。教室もよく整理整頓されている。この学校の躰が家庭でも生きると良い。 ◆交通事故防止については今後もさまざまな場面での指導や呼び掛けを継続していただきたい。 ◆不登校については中学生だけの問題ではなく社会全体の問題となりつつある。小学生も含め、家庭と地域と学校が連携し、社会全体で取り組んでいく課題である。
心身を鍛え健康な生徒へ体育V	①体力と運動技能の向上	●教科体育において敏捷性を強化する運動を工夫するとともに、耐性を育む体育的行事の充実に努める。	●生徒が体育の授業に意欲的に取り組むとともに、三彘・唐沢縦走で完歩を目指そうとしている。	●生徒・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上 ●三彘・唐沢縦走で完歩した生徒の割合 →前年度より増加	生7No.14 保7No.5 完歩率	93% (95%) 87% (87%) 97.9% (中止)	◆新体力テストの結果を踏まえ、走力を向上させるために補強運動として短距離走を取り入れた。その結果、4割以上が全国平均を上回るようになった。今後も継続して実施していきたい。 ◆コースを変更したことで完歩率が高くなり、リタイヤする生徒も少なかった。次年度は完歩率100%を目指して、準備や声掛け等行っていきたい。	◆種目や機会等を含めた運動制限の影響が心配。中学生の頃から運動習慣を身に付けさせてほしい。 ◆コースを変更してでも実施できて良かった。友達と歩いた思い出、達成感等々大切である。実施時期も考慮しながら、継続してほしい。
	②食育の推進	●栄養教諭等が全学級で食に関する指導を行い望ましい食習慣の育成に努める。	●生徒が成長期に必要な栄養を摂取することの大切さを理解するとともに、給食を残さず食べている。	●生徒・保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上 ●給食(主菜・副菜)の1人当たりの残量 →前年度より減少	生7No.12 保7No.6 残量の増減(12月末時点)	83% (85%) 89% (89%) 15.5g (13.3g)	◆栄養教諭等による食に関する指導及び保健体育や家庭科、学級活動等での栄養指導を通して、栄養バランスの大切さについて更に理解を深めさせたい。 ◆前向き黙食のため、食事をする時間の確保はできた。しかし残量が増加している。今後は配膳だけでなくおかわりや残し方についても工夫し、残量を少なくしていきたい。	◆栄養教諭等と連携した食育授業は北中生の強み。大人になったときに備え、理解を深めさせてほしい。 ◆感染症対策等で登校を控える生徒もいると思うので、残量は気にしなくて良いのでは。誰もが三食食べられているかどうかを配慮すべき。
信頼される教職員	①一人一人の生徒に寄り添った指導と支援	●教育的愛情をもって生徒に接するとともに生徒の良さを見つけ、「三彘賞」「唐沢賞」を積極的に授与する。	●生徒が教職員に気軽に相談するとともに、一人一人を褒めて・伸ばすことにより生徒の自尊感情が高まっている。	●生徒対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	生7No.16 生7No.17 生7No.18	88% (89%) 94% (95%) 86% (87%)	◆生徒アンケートでは全ての項目が90%以上までに至っていないが、担任との信頼関係が比較的高く、概ね共感的な人間関係が育まれていると考えられる。今後も引き続き向上に努めたい。 ◆生徒の良さを見付けるために設けている「三彘賞」「唐沢賞」について、教職員間でも捉え方に温度差がある。共通理解の下、積極的に活用していきたい。	◆生徒が、何かあった時担任の先生に相談しようと思うような関係ができてきていることがすばらしい。担任の先生以外との関係も良好であることが伺える。困ったとき、相談できる大人がいることは、ありがたいことである。 ◆保護者会を学年別にしたこと、北中に通う兄弟姉妹両方の懇談会に出席できることが、出席率につながったのではないかと。
	②教職員の職務の厳正と保護者との連携	●職務に対する使命感と誇りをもち、必要に応じてこまめに連絡をとるなどして保護者との連携に努める。	●保護者が我が子を安心して学校に通わせている。	●保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	保7No.7 保7No.8 保7No.9	86% (88%) 86% (83%) 91% (90%)	◆保護者会を学年別に実施したことで、参加率が高くなったと考えられる。保護者への連絡は、プリントやさくら連絡網等、様々な方法で行うようにしている。今後はアンケートや通知等についてさくら連絡網の活用を検討し、保護者との連携を更に深めていきたい。 ◆人権感覚については、昨年より3%向上した。今後は、更に教職員間で共通理解を図り、人権感覚の向上に努めたい。	
家庭・地域・小中学校との連携	①開かれた学校づくりの推進	●保護者や地域住民等に対して、各種たよりや学校Webサイト等を通して、学校の様子を積極的に情報発信をする。	●保護者が学校教育活動に関心と理解を示している。	●学校Webサイトの更新状況 →毎日記事を掲載 ●保護者対象アンケートの結果 →肯定的な回答が90%以上	更新状況(12月末時点) 保7No.10	727件 (374件) 94% (91%)	◆学校Webサイトは休業日を含め毎日記事を更新した結果、昨年の約2倍の記事を掲載することができた。また、学年の偏りがなく生徒の様子を伝えることができた。今後も学校Webサイトをはじめ各種たよりを充実させることで、開かれた学校づくりを目指していきたい。 ◆今後、三彘唐沢SSCとの連携を更に深め、様々な活動をしていきたい。	◆北中魂をはじめとする各種たよりや学校Webサイトでは、生徒や学校の様子が日々更新されている。もっと多くの人に広め、見てほしい。 ◆三彘唐沢SSCの制服リユース活動は、市内に広がりがつつある。北中学校内に活動室があることがありがたい。
	②小中一貫教育の推進	●小中一貫教育佐野北推進ブロックの各部会で定めた取組を実施する。	●小学校から中学校への円滑な接続が図られ、系統性のある学習指導と生徒指導が展開されている。	●ノーメディアデーを実施した生徒の割合 →肯定的な回答が80%以上	実践生徒	83% (81%)	◆学区内小中学校が一緒にノーメディアデーを実施したことで、家庭の協力が得られ、実践した割合が高くなった。今後、小中学校で授業公開や相互乗り入れ授業等を実施し、教職員の交流を深め、児童生徒の指導に生かしていきたい。	◆北中学校と学区内小学校とで学校Webサイトの連携をさらに深め、小学生やその保護者が北中学校の生活を知り、安心して進学できるようにすると良い。